

周術期の循環・呼吸管理実習

Training of Perioperative Circulatory and Pulmonary Management

キーワード

- ① 全身管理医歯学
- ② 麻酔科学
- ③ 全身麻酔
- ④ 循環管理
- ⑤ 呼吸管理

授業概要

周術期に最も多い合併症は循環器系および呼吸器系合併症である。したがって、周術期に適切な循環および呼吸管理を行うことは、安全な医療の提供のために最重要課題である。本実習では、麻酔科学を専門とする教員が、それぞれの分野について基本および専門的な解説を行い、検査・診断・対応に関する専門的な実習を行う。学生は本実習を通して循環および呼吸の生理・病理および救急蘇生法を理解し、管理と治療に関する専門的な知識・態度・技能を修得することを目標とする。

授業科目の学修目標

周術期に適切な循環および呼吸管理を行うことができるために、本実習では、検査・診断・対応に関する専門的な実習を行う。本実習を通して循環および呼吸の生理・病理および救急蘇生法を理解し、必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 周術期の循環および呼吸管理の計画立案実習 12コマ
実習を通じて、安全な周術期管理計画を立案し、問題発見能力を育成する基本を教授する。
- ② 周術期の循環および呼吸管理の基礎実習 24コマ
周術期の循環および呼吸管理に必要な臨床的手法を教授する。
- ③ 周術期の循環および呼吸管理の解析実習 12コマ
周術期の循環および呼吸管理のモニタリング法とその解析に関する基本的手法を教授する。
- ④ 心肺蘇生と救急心血管治療実習 12コマ
急変時の心肺蘇生および救急心血管治療の手法を教授する。

実習担当教員 森本佳成 今泉うの 高城大輔 横江千寿子

教科書および参考書

- ① 金子 譲 編：歯科麻酔学 第7版 医歯薬出版
- ② 武田純三 監訳：ミラー麻酔科学 メディカルサイエンスインターナショナル
- ③ AHA：心肺蘇生と救急心血管治療ガイドライン2015 シナジー

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実習プロトコールを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し周術期の循環および呼吸管理計画の立案ができる。
- ② 周術期の循環および呼吸管理の理論を理解し実践することができる。
- ③ 周術期の循環および呼吸管理の解析理論を理解し実践することができる。
- ④ 急変時の心肺蘇生および救急心血管治療の理論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクトおよび実技の達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

周術期の循環・呼吸管理実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。